

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のその人らしい生き方、なじみの環境作りを考え、あんきにのんきに自分らしい生活をしていただきたいと考え、理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関先に理念をイラスト入りで大きく掲示し、毎日の朝礼、終礼も玄関先で行うため、常に目に付くよう配慮している。又、管理者スタッフ共同し、入居者に明るく豊かで穏やかに過ごしていただく様、日々の努力を行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	色々な催しや、運営推進委員会議等において、グループホームのありかたや、前向きな考え等を理解していただける様、家族や地域住民の方等施設に来所された方々に働きかけている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々に明るく挨拶をし、当ホームに「お茶でも飲みに来ませんか。」等と声掛け、いつでも気軽に立ち寄っていただける様努めると共に、雰囲気作りにも力を入れている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや町の催しである岩石城祭り、武者行列、女性の集い、清掃活動に積極的に参加し、交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いにより、清掃活動等の参加で、地域の人達と共に社会貢献できる場を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価等で指摘されたことを重く受け止め、職員と共に話し合い、改善すべき点は前向きに改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議で話し合ったことや、家族、地域住民からあった意見等を積極的に取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会議以外でも町の担当者や、職員と情報の共有を行い、いつでも来所できるような機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用した事例がない。	○	成年後見人制度等についての研修会に参加し、理解を深め、必要時にはいつでも対応できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図ると共に、虐待に発展する事例を取り上げた勉強会等によって、「虐待は絶対にあってはならないこと。」という認識を深めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者、ケアマネによる十分な説明を行い、家族等の意見も反映できるよう、双方納得するまで話し合いを重ねている。又、入院等による退居後の不安を抱えている家族が多い為、併設施設の協力により、アフターフォローが可能であることを伝えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、市町村、国保連合会の苦情相談窓口を掲示している。又、苦情等あった場合は職員会議にて合議し、運営に役立てるよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者家族全員に文書で金銭報告を行い、健康状態の変化等があった場合は、その都度報告を行っている。又、面会時にも毎日の状況の報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、家族も投書できるようにしている。又、市町村、国保連合会の苦情相談窓口を掲示し、掲示していることの説明も行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員によるミーティングを行い意見を聴取し、その内容を職員全体会議で合議し、運営に反映させている。又、上司に対しても気軽に意見を上申できる雰囲気づくりに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月行事等で人員配置を考え、調整を行っている。又、利用者や業務の都合でやむを得ない場合は、勤務変更により対応し、職員にも理解してもらっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間の職員を定期的に交代することにより、全入居者に対して職員全員が知識を習得できるよう努めると共に、ユニット同士の交流も深めるよう努めている。又、新人職員もすぐに打ち解けられるような雰囲気作りに努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>職員採用に関しては、性別、年齢にかかわらず採用している。又、職員が意見を出しやすい環境作りを努めると共に、意見が出た場合は否定せず、積極的に受け入れる様努めている。</p>	<p>○</p> <p>業務内容に調理があり、男性が面接に来ても料理ができない方が多いので、どうしても女性を採用する場合がある。今後は、男性でも働ける職場作りを目指していきたい。</p>
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の情報の共有を図ると共に、その人らしさを尊重するよう教育を行っている。又、人権教育の研修に参加するとともに、倫理規定を作成し、周知徹底を図っている。</p>	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を策定し、研修に参加した職員は、職員会議時等に研修内容の発表をし、又、リーダー制の導入により職員自分自身で考える力を養えるように努めている。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者により近隣の福祉施設、グループホームとの交流の場を設け、双方の施設見学や、意見交換会等を行っている。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>互助会等で、運営者、管理者、職員が参加する旅行を計画したり、食事会、慰労会等定期的に行い、ストレス発散の場を設けるようにしている。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>仕事の結果だけでなく、プロセスも重視して職員がどういう努力を行っているかということ判断している。又、職員の意見を積極的に取り入れ、やりがいのある職場作りに努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来るだけ会話を重ね、傾聴に努め、コミュニケーションを取れるよう観察と、職員同士の情報の共有を図っている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学から利用に至るまでご家族の納得のいくまで十分に話し合いを行い、又、いつでも相談事等あれば受けを伝えている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に何が必要か、本人の為にどうすれば良いのかを、本人家族と綿密に話し合い、その人にあった支援を提供できるよう努めている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学・案内を十分に行い、場合によっては体験入居をしていただき、本人の生活歴の情報を職員間で共有できるようにし、それを踏まえた上でコミュニケーションがとれるように観察しながらサービスの開始を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の畑で利用者と共に作物の種や苗を植え、育て方や調理の方法を教えていただいたりし、日常利用者から学ぶ姿勢を持ち、互いに支えあう関係に努める。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアの提供において家族の意見を十分取り入れるように努め、入居者・家族・職員が一体となり、本人を支えて行くようにしている。	○ 家族会を発足し、良い関係となるよう努めていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族間で険悪のケースが稀にあり、職員が間にはいることにより、本人の気持ちを少しずつ和らげ、関係の修復が出来るような支援を行っている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の行事に参加したり、家族へ外泊・外出の依頼や、施設行事の時にも家族だけではなく、本人の友人等も積極的に呼びかけるようにしている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各ユニットごとに見守り職員を配置しており、会話やレクレーション等を通じ、援助を行っている。又、会話をする時は全員一緒に話しが出来るよう、なるべく共通の話題になるように努めている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了した後も、施設行事等の案内をし、関係が途切れないように努めている。又、入院時等は見舞いに行く等し、安心して相談出来るような関係を築いている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握に努め、又、情報の共有により、個々に応じたケアを提供している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前のサービス利用していた事業所等への聞き取りにより、生活歴や馴染みの暮らし、生活環境の把握に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	管理者、ケアマネ、介護等すべての職員が一人一人の過ごし方、心身の状態等を把握するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分はどうしたいのか、どうあってほしいのかを本人や家族の意見を聞き、その人らしい生活が送れるよう、職員と話し合い介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うのはもちろんのこと、途中で変化が生じた場合には、関係者と協議しながら新たな計画を作成するようにしている。	○ ほとんどの入居者について見直ししても現状と変化がないことが多く、今後もっと煮詰めた話し合いを行っていきたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別のケース記録を記入しており、気付いたことや工夫等は、各ユニットごとに情報を共有できるような専用のノートを用意し、職員の印にて確認をとっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「グループホームは在宅生活である」という観点から、毎日決められた時間に決められたことをするのではなく、その時々々の要望に応じたケアを提供できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の開催行事や資源等を活用しているが、ボランティアの受入や、地域住民の協力は十分ではない。	○	地域の方々と密接な関係作りに努めていきたい。又、ボランティアの受入も充実していきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向により必要がある場合は、他のケアマネや支援相談員等と密接な話し合いにより、支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例がないため行っていない。	○	今後の必要な場合を想定し、地域包括支援センターとの係わりを深めていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向によりできるだけ希望に添えるような医療を受けることが出来るように体制をつくっているが、病状の変化によっては本人、家族に十分な説明を行った上、同意を得て病院の変更も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
53	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
57	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の昼夜の排泄パターンや量の観察を細かく行い、出来る限り自然な形、気持ちよい排泄に努めている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添えるよう、毎日入浴できるようにしている。又、時間も決めず、一人一人ゆっくり入浴を楽しんでいただいている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の動き、声、足音等に注意し、その日の入居者の状態に合わせて、安心して休息できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、詩吟、ぬり絵等、思い思いの生活を楽しんでいた。又、家事の手伝い、花の手入れ、犬の散歩等、出来る方には日々の役割を明確にした支援を行っている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを理解し、その人の力に応じて所持したり使えるよう支援している。	○	入居者によっては管理面が難しく、トラブルや他人に配ったりする方もいて、所持していない場合もあるので、今後の課題としたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、花壇、畑の手入れ等、その日の状態、気分に合わせて戸外に出かけるようにしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所へ行けるように行事を考えたり、友人の家等に訪問したりしている。	○	家族にもっと積極的に参加していただけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をいつでも使用できるようにしている。手紙についてもポストを設置する等、利用しやすいようにしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が訪問に来た際は、お茶やコーヒーをお出しし、気持ちよく過ごせるよう配慮している。又、帰られる際は、入居者と共に玄関先まで見送りし、又訪問していただけるよう声がけしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する事例を職員より考案させ、又、「自分自身が拘束される立場だったら」ということを考えさせ、拘束は絶対にあってはならないことだということを認識している。又、拘束廃止マニュアルも作成し、知識習得にも努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵をかけないようにしている。夜間は防犯の為施錠を行っている。		
68	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の徘徊、不穏行動ある場合は、十分にプライバシーに配慮しながら所在の確認や安全の確保に努めている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせ、保管、管理を行っている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の命を預っているということを念頭に置き、日々事故対策に取り組んでいる。又、転倒事故等あった場合は、報告書を提出し、会議にて再発の防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ターミナルケア時、急変やあらゆることを想定し、対応にあたってきた。又、消防の講習や他の施設の勉強会に参加し、定期的に訓練を行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、緊急時の対応について訓練している。	○	近隣の施設の協力は確保しているが、地域住民の協力体制も確立していきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や面会にこれら時に話し合いを通じ、抑圧感のない暮らしの提供に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも体調の変化等があった場合は、常々話し合いを行うと共に、朝礼、終礼時にも報告し、日中勤務している職員、夜勤職員、公休の職員も全員情報の共有を図っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等は全員理解できるように努め、昼夜の症状の変化を書きとめ、職員一同確認しあっている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を話し合うと共に、毎日ラジオ体操や園内歩行にて運動を促し、飲食物も牛乳や繊維あるもので対応している。又、腹部マッサージ等も行っている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアにも力を入れ、食後については口腔内の清掃保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態、習慣に応じた支援を行うと共に、必要時には1日の食事を5回に分けたりして対応している。又、水分量も1日の摂取量を記録に残しながら把握に努めている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている。又、体調が本調子でない家族の面会等はお断りするか、マスクの着用をいただいている。	○	毎日手洗いやうがいの施行を行っているが、今後はもっと強化していきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材及び調理器具は電解水発生装置を使用することで食中毒予防を行い、食器等の洗浄後は、食器乾燥機で熱消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や植木等で明るく季節感を出し、気持ちよく出入りできるように配慮している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は入居者に不快感を与えないように業務に励み、建物内では季節に応じた飾りつけをすることにより、居心地良く過ごせるような雰囲気作りに努めている。又、正月には職員、入居者共に着物を着用したりと、年間を通じ入居者の方にも今がどういう季節かということを認識していただくよう勤めている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファやテーブル、椅子、新聞や雑誌等を置くことで、本人の時間をゆっくり過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや、写真等にて本人が安心して過ごすことができるように配慮している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においは、換気、消臭剤の設置、炭等を置いて対応している。温度調節は入居者主体で考え、こまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や段差をなくすことにより、安全に自立した生活が送れるよう配慮している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人一人の理解する力を見極め、その人に応じた自立した生活を提供できるよう努めている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の奥にはベランダを設置し、外でお茶を飲んだりできるようにしている。又、建物のすぐ周りに花を植えることで、施設周りを楽しく散歩できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者no
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・施設や職員の明るさをモットーに、四季折々の季節感を出す工夫やアレンジを行なっている。(食事・掲示物・ホールのディスプレイ・ピクニック・ドライブ)等そして、又、「ここに入居してよかった」と言って頂けるようなケアを目視しスタッフ一同、質の向上をはかっている。